


安全へ「選択と集中」。レッドゾーン戦略「第2弾！」

きみがさき

君ヶ崎交差点の対策に着手します。

国道16号 横浜市金沢区君ヶ崎交差点の交通事故対策工事着工のお知らせ。

記者発表資料

国土交通省横浜国道事務所では、死傷事故率の高い箇所の対策を集中的に行う「レッドゾーン戦略」に基づく交通事故対策工事に12月上旬から着手します。

対策工事を行う国道16号君ヶ崎交差点（横浜市金沢区）は、死傷事故率が1544.8件/億台kmで、この値は昭和40年代の「交通戦争」の頃の事故率を上回っています。

君ヶ崎交差点は国道16号が緩やかにカーブするところに市道が斜めに取り付く変則的な交差点で、事故の特徴は、追突事故と右左折時の事故が全体の約7割を占めています。

君ヶ崎交差点は「交通安全見える化プラン」（神奈川県安全性向上委員会）で要対策箇所として位置づけられています。今回の工事では事故の分析結果や地元の意見を元に警察と協力して、「左折車から二輪車や横断する自転車・歩行者を見えやすくする対策」や、「走行ラインをわかりやすくする対策」等を行います。

工事期間は12月上旬から約2ヶ月を予定しています。工事は夜間に行い、車線の規制を伴います。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願い致します。

平成19年11月22日

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ	横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会	神奈川県政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所
 計 画 課 長 ^{どひ}土肥 学（内線 301）
 交通対策課長 星野 豊（内線 471）
 電話 045-311-2981（代表）

■ 対策の概要

【右折事故対策：走行ラインをわかりやすくします】

- ・中央帯ゼブラの前出し
- ・右折指導線改良
- ・カラー舗装

【追突事故対策：交差点に近づく車に注意喚起します】

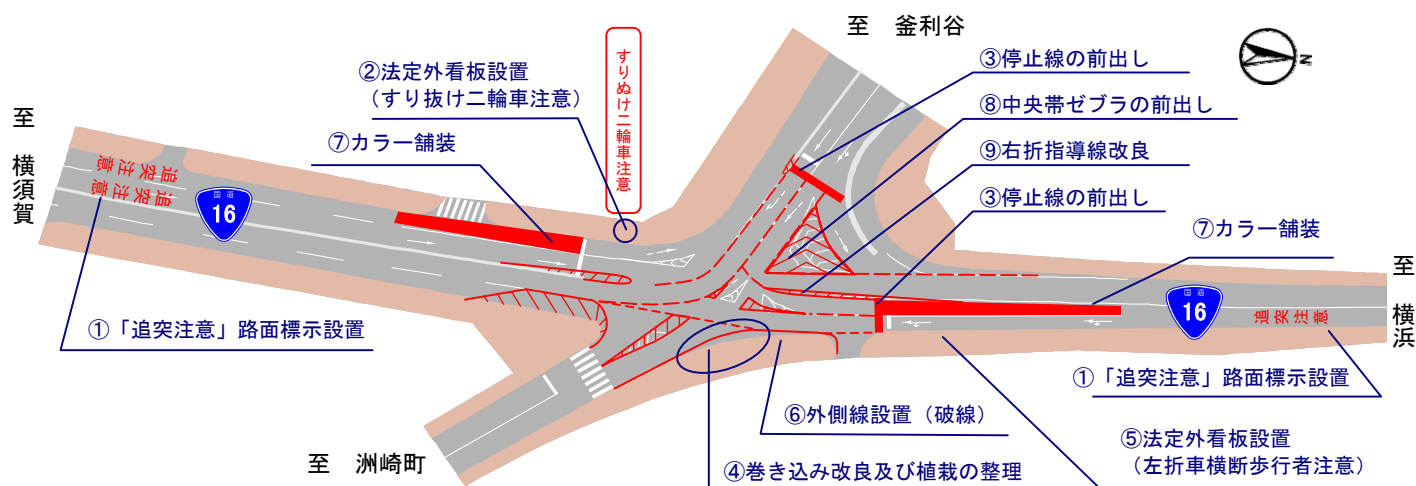
- ・「追突注意」路面標示設置

【左折事故対策：左折車から二輪車や横断する自転車・歩行者を見えやすくします】

- ・法定外看板設置（すり抜け二輪車注意）
- ・停止線の前出し
- ・巻き込み改良及び植栽の整理
- ・法定外看板設置（左折車横断歩行者注意）
- ・外側線設置（破線）
- ・カラー舗装

【対策のイメージ】

- | | |
|----------------------|-------------|
| ①「追突注意」路面標示設置 | ⑥外側線設置（破線） |
| ②法定外看板設置（すり抜け二輪車注意） | ⑦カラー舗装 |
| ③停止線の前出し | ⑧中央帯ゼブラの前出し |
| ④巻き込み改良及び植栽の整理 | ⑨右折指導線改良 |
| ⑤法定外看板設置（左折車横断歩行者注意） | |



【対策の概要図】

「追突注意」路面標示設置



速度超過車両に対して注意喚起することにより、追突事故を防止します。

カラー舗装



カラー舗装を行う事により、ドライバーに交差点の存在を事前に認識させ、注意喚起、速度抑制を行います。

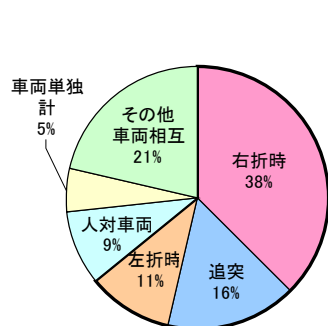
右折指導線の改良



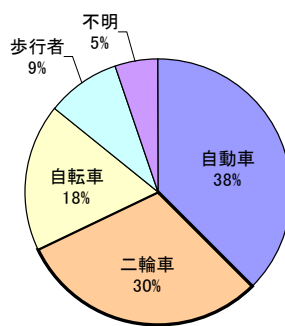
右折車等の走行位置を安定化させ、右折による事故を防止します。

■ 事故の特徴

- ◆ 追突事故と右左折時の事故が全体の約 7 割を占めています。
- ◆ 二輪車の事故が 3 割を占めています。



事故の種類



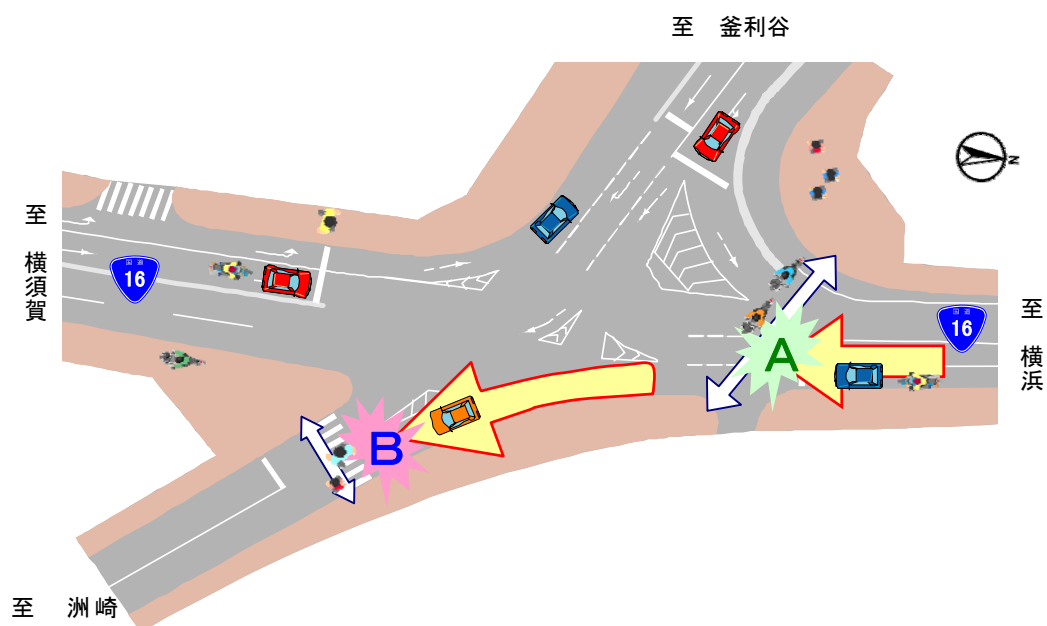
事故の当事者

案内図(神奈川県横浜市金沢区)



〈地域のヒヤリの声〉

- A 横浜方面から交差点に入るとき、車道を横断する自転車・歩行者にヒヤリとした。
- B 横断歩道を横断中に、横浜方面から減速せずに左折してくる車にヒヤリとした。



レッドゾーン戦略 — 「必要な道路」に重点投資

「交通戦争」の頃のような危険な状態にある道路（レッドゾーン）が残っています。

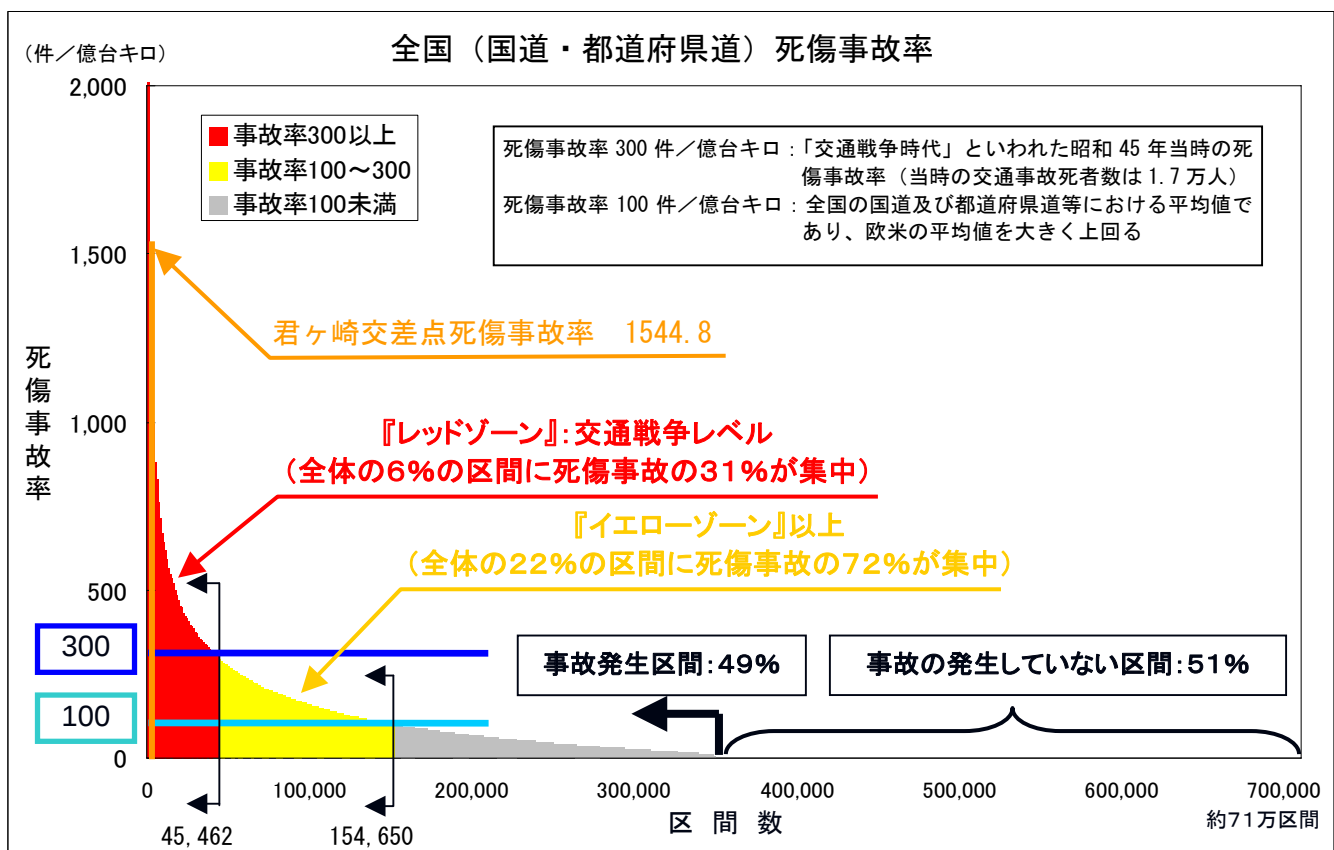
- S45年の交通事故死者数は1万7千人で、「交通戦争」という言葉が使われました。
- その頃、車が1億km走る間に平均で 300件の事故が発生していたことになります。
- 現在は100件まで下がってきましたが、今でも欧米と比較すると高い状況です。
- 交通戦争の頃のように300件を超える区間（レッドゾーン）が全国の国道と都道府県道（18万km、71万区間）にまだ約6%存在します。

関東地整では、レッドゾーン・イエローゾーン以外の区間では、原則として事故対策事業を実施しません。

- わずか6%の区間のレッドゾーンに、死傷事故の31%が集中しています。
- この区間に集中して対策することが、事故率の低減に直結すると考えました。
- また、100件を超える区間（イエローゾーン）も含めた22%の区間に死傷事故の72%が集中しています。

レッドゾーンに集中して対策を実施します。

- 関東地整で平成19年度に交通事故対策の事業を行うのは226箇所。予算（交通事故重点対策事業費）の総額は約156億円です。
- 226箇所中、99%の箇所が、レッドゾーン・イエローゾーンの区間に該当し、ここに予算の98%を投入します。
- 特に、レッドゾーンの区間に、箇所の67%が該当し、予算の65%を充てることにしています。



※全国の国道・都道府県道における4年間（H14～H17）の事故データから作成